

# 宿縁

六月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派 中原寺

TEL 〇四七―三七二一〇二九二  
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

## 耳を澄ますと

## 呼び声が聞こえる



もともと一般小説を読むのが好きなほうではないのに、最近読んでみたいと思う本に出会いました。「52ヘルツのクジラたち」(町田そのこ 著)という題名です。  
2021年度本屋大賞に選ばれたこの本は是非皆さんにも読んでみていただきたいお薦めの作品です。  
52ヘルツのクジラとは―他のクジラが聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ(1989年に発見され、今も生きていて毎年発見されるそうです)。たく

さんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。そのため、世界で一番孤独だと言われている。

あらずじは、自分の人生を家族に搾取されてきた女性と、母に虐待され声まで失ってしまった少年が、孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた二人が出会い、新たな魂の道が生まれるという物語です。

そして、物語のベースには現代社会が抱える闇。保護者の児童虐待、性暴力(DV)、また性同一性障害(性的少数者)などの現実を誰にも知ってほしいという作者の強い思いが詰まっています。多くの人間が住む社会、何も届かない、何も届けられないこのような人がいる。52ヘルツのクジラたちのように。その声を聞くやさしさを誰もが持ち合わせてほしいとの思いが伝わってまいります。

人間をはじめ地球上の生き物はみな仲間と交信する伝達手段をもちます。鳥たちの鳴き声は求愛や縄張りをあらわすそうです。地上の最大の動物である象は人間には聞こえない超低周波音で12km先の仲間と会話できるそうです。また海の最大の哺乳動物であるクジラの周波数は大抵が15〜25ヘルツだといっています。そしてザトウクジラの歌う歌声は数百キロ離れた場所まで届くのだそうです。  
さて高度に発達した文明の中で私たち人

間は次第に仲間という意識が薄れ、他人を無視し自分中心の思いが強くなって、気にくわないものを排除する傾向が多くみられるようになりました。

困ったことに、他人を排除するということは、やがてどこかで自分も排除されるということなんです。そうした自分自身の愚かな姿を映し出す鏡をもたなくなったところに現代生活の特徴があります。

「仏壇のある家庭」というイメージに現代人はどんなふうにも思うでしょうか？

「古めかしい」、「陰気くさい」、「長男の家」、「老人の家」、「身近に亡くなった人がいる」、「ちよっと変わった宗教に入っている」等々。

もしこの中の一つにでも思い当てはまるものがあれば、改めなければなりません。人間として、人生道を歩む日々の中心となる場所がご本尊を安置し礼拝する場所です。「日々新たな」と手を合わせ、感謝と希望に向かう生きるエネルギー源が仏壇のあるべき意味と想ってください。

かつて西欧の文明が日本に入り外国人が日本人の暮らしを見て、とても驚いた光景は「日本の家々にはチャーチ(教会)がある」というものでした。チャーチと表現したのは「仏壇」のことです。身なりや家は粗末でもそこに生きる大人や子どもたちには笑顔とやさしさが目に映ったそうです。

しかし西欧の機械化された文明はその後の日本人の価値観を変え、生活の便利さを追求し、飽くなき欲求こそ人間の幸福に通じるものと未だに信じ、走り続けていると言えないでしょうか。

仏壇は死者を祀るところでも、家を継いだものだけが安置するものでもありません。一人ひとり、家庭一家庭が、人間とはどうあるべきか、家庭とはどうあるべきか、社会とはどうあるべきかを、自己主張するのではなく、真の平等観に立たせてくれる阿弥陀さまのお心を仰ぐ場所と位置付けてください。小さな空間でも立ち止まってそこに身を置くこと、仏さまの呼び声が聞こえてきます。

あなたが笑うと(泣いたら) 花(雨)になる  
見ている私も 花(雨)になる  
いいことあるよ 笑ったら

(いいんだいいんだ 泣いたって)  
誰でも花になれるんだ  
(雨がふるから 花が咲く)

空を見上げる(風によりそう)花のように  
笑顔いっぱい咲かそうよ

(やさしい笑顔が咲くんだよ)  
空を見上げる(風によりそう)花のように  
笑顔いっぱい咲かそうよ

(やさしい笑顔が咲くんだよ)  
(やさしい笑顔咲かそうよ)

(右は親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要愛唱歌より)

みんなが仏壇の間違った観念を払拭し、心静かなひと時を持つようにいたしましょう。

ほとけは つねにいませども  
うつつならぬぞ あわれなる  
ひとの音せぬ あかつきに  
ほのかに ゆめにみえたまふ  
(梁塵秘抄より)

【寺灯雑記】

○久しぶりにお仏具磨きの奉仕

5/1

宗祖降誕会・永代経法要を控えて、多くの皆さんがお出かけくださって、朝からお仏具磨きや清掃の奉仕に汗を流してくださいました。

コロナ禍で大勢でのお仏具磨きが出来ず、境内の清掃も細かな部分までいき届かなかった箇所もありましたが、お陰様で仏具も境内もきれいにできていただき、その後の二法要をお勤めすることができました。皆さんお疲れさまでした。

○婦人会法座で「昔話法廷」を鑑賞

5/1

お仏具磨きが行われた日の午後から、定例の婦人会法座が開かれました。正信偈のお勤めのあと、先月号の本紙でも紹介した「昔話法廷」を聞法会館にて視聴しました。

昔話におけるヒーローである桃太郎が裁判で被告となるという衝撃的な内容と、有名俳優陣の迫真の演技に、会員の皆さんも固唾をのんでご覧になっていました。

観覧後は、正義とは何か、事件の背景にあるそれぞれの事情など、それぞれに考えさせられたことと思います。

ご興味のある方は、NHK「昔話法廷」のホームページより今まで放送された全話が視聴できますので是非！

○新しく中原寺のお仲間

5/11

4月18日に行われた入門式に急用のた

め欠席された吉田さんご夫婦が来寺され、改めて入門式を受式されました。

これから、ご一緒に阿弥陀さまのおこころを聴聞し、お念仏させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

\*吉田和仁様  
奥様

○二法要が勤修される

5/16

新緑のさわやかな香りが漂うこの日、宗祖降誕会法要と門信徒総永代経法要が勤まりました。

例年ならば、午前に降誕会法要、午後永代経法要をお勤めしますが、緊急事態宣言下のなか、午後のみでの法要となりました。

降誕会法要では婦人会会員による献灯献花が行われ、厳粛な法要の中に彩りが添えられ、親鸞聖人のお誕生をお祝いしました。法話は住職より「五色幕の説明」と「誕生の意味」、前任職より「先立つ人は善知識」と題してお話をいたしました。

【仏教語の風景】(玄関)

玄関はもともと建物の名前ではなかった。

玄関の「玄」は深遠(じんのん)なる道理、原理、真理、哲理、神秘のことで、「関」は関門である。

だから、「玄関」とは、玄妙な道に入る関門という意味となる。奥深い仏教の教えに入る手始めとか、糸口とかのことである。

「入門講座」という言葉があるが、その「門」は建物ではない。「仏門に入る」の「門」も同じである。

この玄関という言葉が、やがて禅寺の客殿に入る門を指すようになり、寺院の書院の昇降口のこととなった。

室町時代から桃山時代にかけて、公家や武家は、自分たちの邸宅に寺院の書院の建築様式を取り入れる。いわゆる書院造りである。その出入り口を玄関と呼んだ。

しかし、まだ庶民の住宅に玄関をつくることは許されなかった。

江戸時代に、江戸町名主のことをまたの名で「玄関」と呼んだ。それは、町名主は玄関を構えることが許されていたからである。

現在のようになつたのは、明治以後のことだという。

「玄関構え」「玄関番」「玄関先」など、玄関のつく日常語は多い。面会してもらえないで、追い返されることを「玄関払い」。見栄を張って、外観だけを豪勢に見せようとすることを「玄関を張る」という。

やがて、「京都の玄関口」「日本の玄関」「海の玄関」「空の玄関」「宇宙の玄関」と、玄関という日常語は限りなく広がりをみせる。

このように、仏教語「玄関」は日常生活の中に普及し浸透していった。

(本願寺出版社「仏教語の風景」より)

【法要・法座のご案内】

○婦人会法座

\*六月五日(土)午後一時

お勤め…正信偈  
法話…前任職(「正信偈」解説)

○壮年会法座

\*六月六日(日)午後三時  
お勤め…正信偈  
法話…住職(「仏説阿弥陀経」解説)

★婦人会、壮年会ともに随時、会員募集中！  
ご興味があるかたは、お気軽に体験入会にいらしてください。

○常例法座

\*六月二十日(日)午後一時  
法話…脇本正範師  
(習志野市 照光寺)

○門信徒会役員会

\*六月二十日(日)午後三時三〇分

○教行信証を学ぶ(信巻)

\*六月二十六日(土)午後二時  
講師…前任職

【六月の掲示板のことば】

阿弥陀さまの呼び声は—  
どんな時でも 一緒に居るよ！

※「YouTube 中原寺」で検索

月二回の割合で前任職の法話を配信しています。『8回シリーズの教行信証「総序の文」をいただく』が終了し、前回から『法句経(ダンマパダ)を読む』が始まりました。